

10月の農作業

平成20年10月10日

J A テ ラ ル 越 前

奥越農林総合事務所

今月のポイント

- ★生ワラは燃やさずに土づくり
- ★里いも優良種子の選抜
- ★そばの排水対策及び害虫防除
- ★麦の播種
- ★大豆の適期刈り取り

1. 今後の気象予想（新潟地方気象台）

北陸地方 1か月予報

（9月27日から10月26日までの天候見通し）

【特に注意を要する事項】

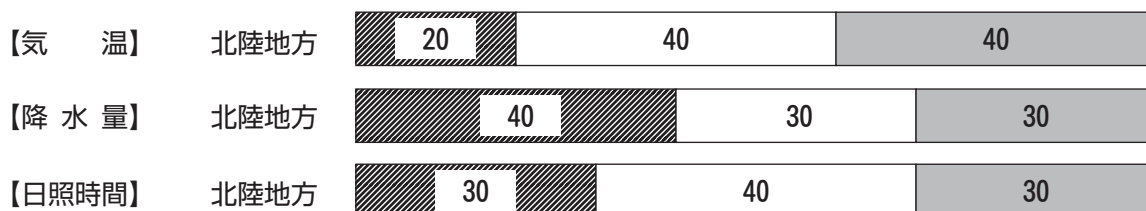
期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

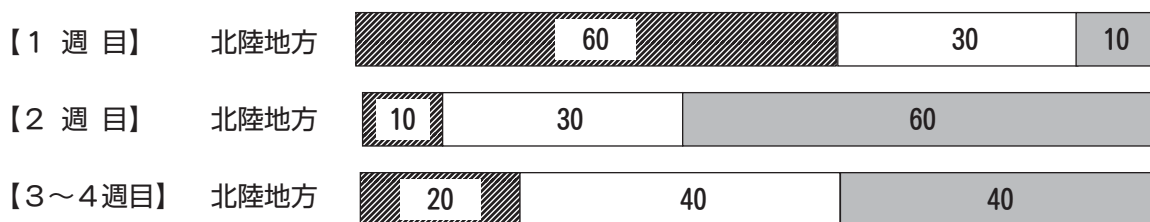
天気は数日の周期で変わり、期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。向こう1か月の気温は平年並または高い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は低い確率60%、2週目は高い確率60%、3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〉



■ 低い(少ない) □ 平年並 ■ 高い(多い)

〈気温経過の各階級の確率(%)〉



■ 低い □ 平年並 ■ 高い

〈予報の対象期間〉

- 1 月 日：9月27日（土）～10月26日（日）
- 1 週 目：9月27日（土）～10月3日（金）
- 2 週 目：10月11日（土）～10月17日（金）
- 3～4週目：10月18日（土）～10月24日（金）



北陸地方3か月予報

（10月から12月までの天候見通し）

（予想される向こう3か月の天候）

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は平年並または高い確率ともに40%です。

10月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

気温は平年並または高い確率ともに40%です。

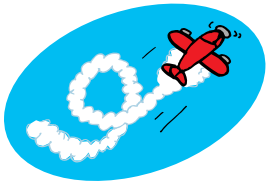
11月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

気温は平年並または高い確率ともに40%です。

12月 平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。

〈向こう3か月の気温・降水量の各階級の確率（%）〉

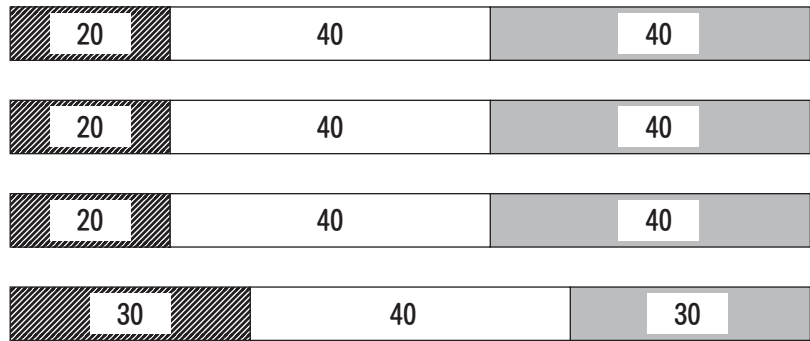
【気温】〔北陸地方〕 3か月



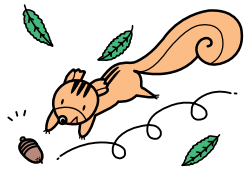
10月

11月

12月



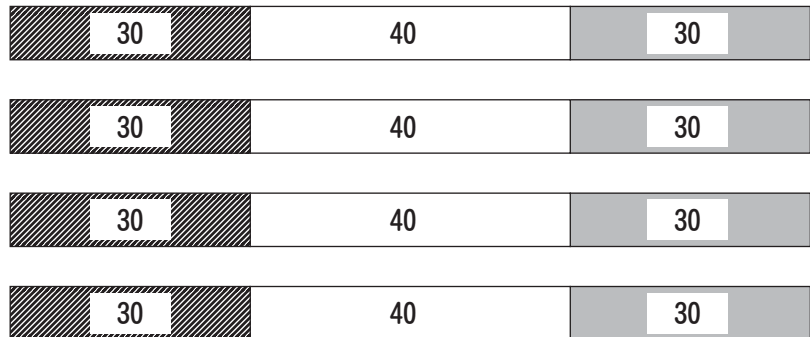
【降水量】〔北陸地方〕 3か月



10月

11月

12月



■ 低い（少ない） □ 平年並 ■ 高い（多い）

2. 農産物対策

水 稲

1. 来年度の作付計画は今のうちに

2. 土づくり

稲の刈り取りもほぼ終わりましたが、気温の高い今のうちに土壌改良資材を施用し、深耕に努めましょう。

尚、石灰窒素・いね一番は散布10日以降に、十分に成分が溶けてから耕起してください。

3. 圃場耕盤の均平化

稲の安定生育には、圃場耕盤を均平化することがポイントであり、耕運作業を低速にして、今年の内圃場耕盤の均平化に努めましょう。

大豆

1. 刈り取り時期

○手刈り

葉は完全に落ちて、ほとんどの莢がカラカラと音がする時期で、大豆がこぼれるため、午前中に収穫しましょう。

○コンバインによる刈り取り

手刈りより5〜7日ぐらい遅らせ、すべての莢がカラカラと鳴り、茎が手でポキポキと折れるときで、汚損粒の発生を防ぐため、青立ち等の茎は収穫前日までに取り除き、また土の混入を防ぎ、日中に収穫してください。

2. 脱穀

手刈りした大豆を高水分のまま脱穀すると、汚損粒が発生しやすいので、島立て・地干しなどにより乾燥させてから脱穀しましょう。

3. 乾燥

急激な乾燥を行うと、収穫時の

高水分ではしわ粒、低水分では裂皮しやすいので、乾燥温度は外気温より少し高い温度で気長に行いましょう。

そば

1. 排水対策

根の機能を高め結実・稔実を良くするため、排水の徹底を図りましょう。

2. ヨトウムシの発生に注意

夏季の高温により、ヨトウムシの発生が見られます。

ヨトウムシの被害に遭うと短期間で相当のダメージを受けるので、早期発見と防除に努めましょう。

◎防除剤

●ロムダンフロアブル 2,000倍を150〜300g/10aまたは、ロムダン粉

剤DLを4kg/10a散布

※この2剤は、収穫21日前までに使用、またどちらを使用しても2回以内とする。

●ゼンターリ顆粒水（BT剤） 2,000倍を150〜300g/10a

※収穫前日まで使用可能、但し4回以内とする。

3. 刈り取り

刈り取り時期は、11月上旬頃ですが、圃場毎に収穫時期が異なりますので注意しましょう。

遅刈りになると刈り取り時の脱粒によるロスが多くなるので、70〜80%位が成熟し、黒褐色に変わった時に行いましょう。またコンバインによる刈り取りの場合は、葉枯れしてから行いましょう。

大麦

1. 播種時期

時期は10月上旬〜中旬に行ってください。

但し、若干遅れても圃場条件が良いときに播種することが大切です。

圃場の水分が少ない好条件の日

に耕起、播種作業を実施してください。

2. 播種量

条播、散播とも6〜7kg/10a

3. 種子消毒

〈浸漬法〉ベンレートT水20

（200倍液）の24時間浸漬

※浸漬後は、直ぐにムシロ等に広げて乾かしてください。

または〈粉衣法〉ベンレートT水20

乾燥種子重量の（0.5%）粉衣

4. 元肥（播種後に元肥を施用）

複合高度444 散播 30kg/10a

条播 20〜25kg/10a

または一発肥料

スーパーSRコート麦用一発

35kg/10a

5. 除草剤

条播（播種後、完全に覆土し、

麦の発芽するまで）

ガレースG粒 4〜5kg/10a

または（播種後、完全に覆土し、播種〜3葉期）

ハーモニー細粒剤F

4～5kg/10a

散播（3葉期～節間伸長期）

ハーモニー75DF水 薬量5～

10gを水100リットル/10a

農業機械による

作業時の注意事項

★機械作業は最も災害の危険性が高い作業です。事前の機械整備と共に、十分に安全を確認して移動および作業を行うてください。

★トラクター、汎用コンバイン作業時で道路を移動するときは、タイヤ・キャタピラに付いた泥で道路が汚れないようにご注意願います。泥が多く付いているときには一度、車輪を洗浄してから移動するようになっています。

里芋

良質な里芋を収穫するために、来年度の里芋は病害虫の有無を良く確かめて、1粒50g以上の大粒の健全な種芋を確保してください。10a当たり200～250kg必要です。圃場は、秋に3～5回充分に耕起、碎土をしておき、排水溝を設けてください。モミガラを混和すると通気性が良くなり、さらに芋の形状が良くなります。

キク

花卉

10月は定植の時期です。遅くても中旬までには定植しましょう。

○定植のポイント

定植目標を10月1日からとして作業を進める。早めの定植は、春の芽立ちの安定につながると思わ

れます。定植が遅れると冬の寒さに耐えられず、春の芽立ちの悪化につながります。

暮れ植えの苗は、大株の方が良い。若苗で遅植えの場合は、春の芽立ちが非常に悪くなります。

○10月咲きの管理（出荷）

切り出し

一番重要なことは、「切り前」（咲き具合）が一様であることです。

病害虫防除

出荷間近の品種は、幕切れ前にオオタバコガの殺虫剤を花の部分だけ散布しましょう。

【主な使用農薬】

ラービンフロアブル・ガードジエック
ト水和剤・ロムダンフロアブル・
アフアーム乳剤・スピノエース
顆粒水和剤・プレオフロアブル



シンテツポウユリ

中心球の掘り上げ
切り下株の掘り上げを行います。
〈暮れ植えの場合〉
11月の定植まで日陰で保存します。
〈春植えの場合〉
春まで保冷庫に入れて保存します。



スプレーギク

出荷

一番重要なことは、「切り前」（咲き具合）が一様であることです。
病害虫防除

害虫の発生は少なくなってきましたが、アブラムシ・ダニ・夜蛾類には注意して、発生を見たら初期防除に努めましょう。